

# 令和5年度白井市施策評価 外部評価結果報告書

令和5年11月  
白井市総合計画審議会

## 目次

1	報告に当たって.....	1
2	令和5（2023）年度外部評価の概要.....	2
	（1）外部評価の対象.....	2
	（2）外部評価の視点及び評価基準.....	3
	（3）外部評価の実施方法.....	4
	（4）当審議会の開催経過.....	4
	（5）当審議会の構成.....	5
3	令和5年度外部評価の結果.....	6
	（1）評価結果の総括.....	6
	（2）施策別の評価結果.....	7
4	各委員の評価結果.....	9
5	今後の外部評価に向けて.....	31
	参考資料.....	32

## 1 報告に当たって

白井市では、平成25年に千葉ニュータウン事業が収束し、これまで増加し続けてきた人口も減少に転じ、少子化・高齢化の一層の進展が見込まれるなど、これまでの量の拡大を基調としたまちづくりから、質の向上や地域資源の活用を基調とした持続可能なまちづくりへと、新たなステージに突入しています。

このような中、当審議会は、平成28年度から令和7年度までの10年間を対象期間とする白井市第5次総合計画（以下「総合計画」という。）や、総合計画の前半5年を期間とする前期基本計画、後半5年を期間とする後期基本計画の策定に携わってきました。

総合計画では、白井市を次世代に良好な形で継承していくため、将来像に「ときめきと みどりあふれる 快活都市」を掲げ、その実現に向けて3つの重点戦略（若い世代定住プロジェクト、みどり活用プロジェクト、拠点創造プロジェクト）を定めています。

そして、3つの重点戦略を推進するため、前期基本計画の取組の成果や課題を検証した上で、令和3年度から令和7年度までを期間とする後期基本計画を策定し、8つの施策（戦略の柱）に取り組んでいくこととしています。

総合計画の実効性を確保するためには、行政活動を客観的に評価して、限られた行政資源（人・物・金・情報・時間）を組織全体で最適に配分するためのマネジメントの仕組みである行政評価を適切に機能させることが不可欠であり、行政評価に基づいて、市民ニーズに真に合致したサービス、納税者である市民が納得するサービスを提供することが求められます。

このため、白井市では、総合計画の実現を下支えする白井市行政経営指針に基づき、大局的な視点で市民にとっての成果を捉えるために、平成29年度から実施計画事業より1階層上である施策を対象とした施策評価を導入しました。さらに、行政評価の客観性・透明性を確保し、市民や専門家の視点から行政活動の改善を進めるため、施策評価に当審議会による外部評価を導入しました。

当審議会では、後期基本計画の2年目である令和4年度の施策への取組成果について、内部評価の結果を踏まえ、昨年度に引き続き、後期基本計画から新たに取り入れた「ロジックモデル」を意識しながら、まちづくりの進め方の柱である「情報・共有」「持続可能な行財政運営」「参加・協働」が図られているかの観点からも検証し、各委員がそれぞれの立場から、その知識や専門性、経験を活かして外部評価を実施し、行政では気づきにくい視点や、市民に近い視点から意見を取りまとめました。

当審議会の意見が、庁内における活発な議論に活用され、施策のより一層効果的な推進が図られるとともに、白井市の行政評価制度が円滑に機能するための一助となるよう、本報告書を提出します。

白井市総合計画審議会 会長 関谷 昇

## 2 令和5(2023)年度外部評価の概要

### (1) 外部評価の対象

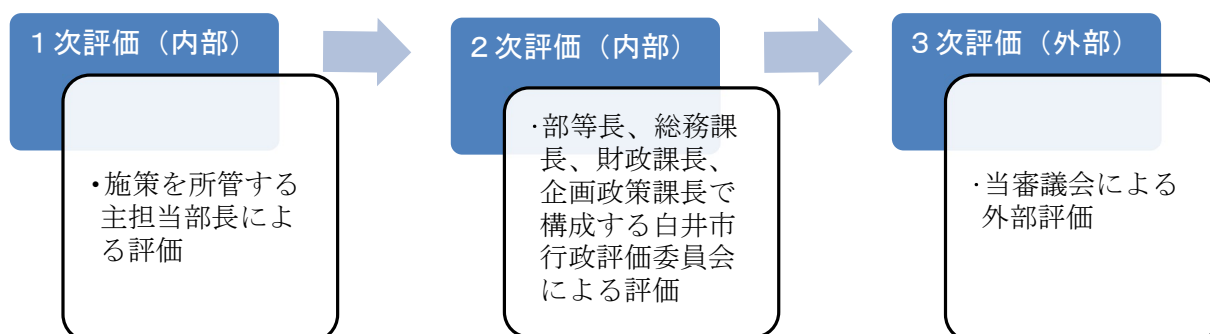
白井市では、8つの施策全てについて、当該施策を所管する主担当部長による1次評価と、庁内の行政評価委員会による2次評価を実施しています。

当審議会では、8つの施策全てを3次評価の対象とし、令和4(2022)年度から令和5(2023)年度の2年間に分けて外部評価を行う方針のもと、今年度は令和4年度に実施した施策以外の4施策を選定し、3次評価として外部評価を実施することとしました。

#### 【評価対象】

重点戦略	施策	評価対象		主担当部
		令和4 (2022)	令和5 (2023)	
戦略1 若い世代定住 プロジェクト	1 ゆとりある暮らしを感じるまちづくり	○		都市建設部
	2 働く場を生み出すまちづくり		○	市民環境経済部
	3 子育てしたくなるまちづくり	○		健康子ども部
戦略2 みどり活用 プロジェクト	1 「かかわれる農」のまちづくり		○	市民環境経済部
	2 みどりを育み活かすまちづくり		○	市民環境経済部
戦略3 拠点創造 プロジェクト	1 都市拠点がにぎわうまちづくり	○		都市建設部
	2 地域拠点でつながる健康なまちづくり	○		市民環境経済部
	3 拠点を結ぶまちづくり		○	都市建設部

#### 《参考》外部評価までのフロー



## (2) 外部評価の視点及び評価基準

当審議会では、各委員が主に9つの視点に基づき、視点ごとに4段階で評価を行いました。

また、これらの視点に限らず、各委員のそれぞれの知識や専門性、経験に基づく視点からも意見を述べました。

### ア 外部評価の視点

項目	内容
取組状況	①目標実現に資する取組となっているか。
	②市民ニーズに即した取組となっているか。
	③各分野間で必要な連携が図られているか。
	④市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。
成果	⑤目標実現に向けて成果は上がっているか。
	⑥1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因的確にとらえられているか。
課題・方向性	⑦問題・課題が的確にとらえられているか。
	⑧今後の方向性・進め方は的確か。
分かりやすさ	⑨市民に分かりやすい記載となっているか。
総合評価	施策の総合評価

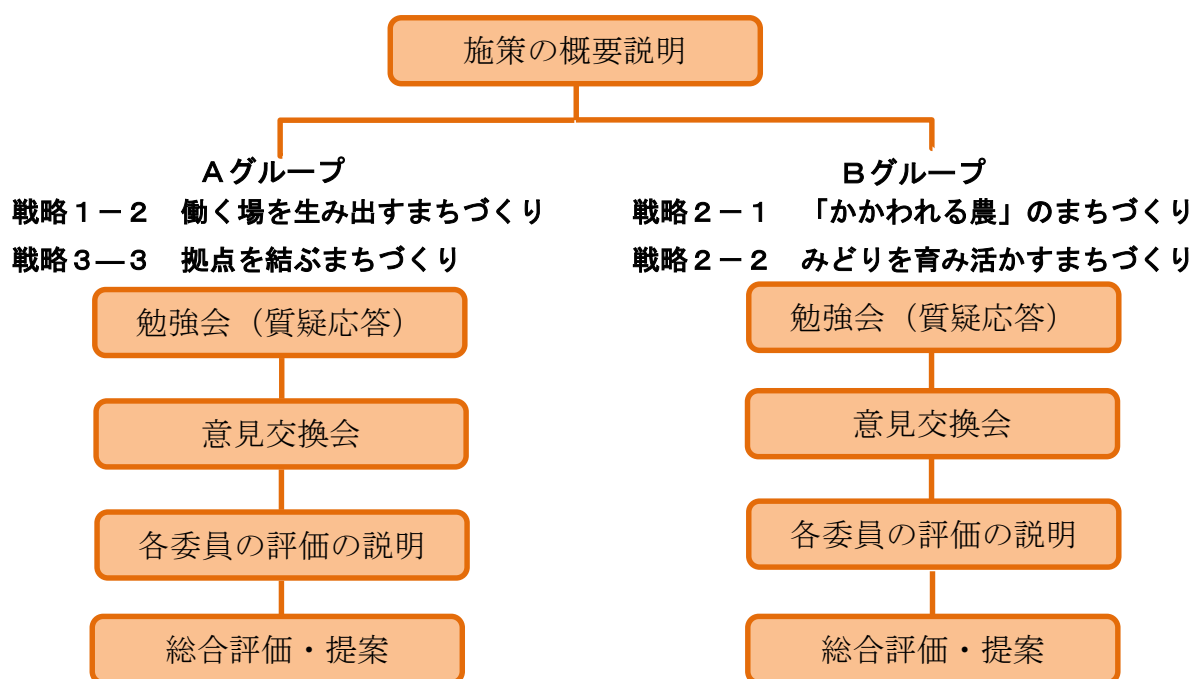
### イ 評価基準

類型	内容
A	優れている（期待を上回る、非常に的確に捉えている）
B	やや優れている（期待をやや上回る、妥当である）
C	やや劣っている（期待をやや下回る、評価が過大過小又は記載内容に不足がある）
D	劣っている（期待を下回る、評価が大きく過大過小又は記載内容に多くの不足がある）

### (3) 外部評価の実施方法

当審議会では、施策への取組状況や庁内での1次・2次評価結果などの説明を受けた後、施策への取組や成果等に関する理解をさらに深めるため、2グループに分かれて、担当課長との質疑応答形式による勉強会を実施しました。

その後、各委員が自身の評価内容を述べ、委員間での協議した後、当審議会として最終的な総合評価を決定し、今後の取組の改善に向けた提案を行いました。



### (4) 当審議会の開催経過

開催日	開催回	内容
令和5年 6月9日（金）	令和5年度 第1回	・施策評価の1次・2次評価結果の説明
7月19日（水）	第2回 (Aグループ)	・勉強会（担当課長との質疑応答） ・意見交換会（ワークショップ）
7月21日（金）	第2回 (Bグループ)	・勉強会（担当課長との質疑応答） ・意見交換会（ワークショップ）
8月4日（金）	第3回	・外部評価の実施（各委員の評価の発表、 総合評価の決定、改善に向けた提案）
10月20日（金）	第4回	・外部評価結果及び市の対応方針及び外部 評価結果報告書について

(5) 当審議会の構成

氏 名	所属・役職等
関谷 昇 (会長)	千葉大学 大学院 社会科学研究院 教授
野水 俊夫 (副会長)	一般社団法人白井工業団地協議会 顧問
鎌田 元弘	千葉工業大学 創造工学部 都市環境工学科 教授
手塚 崇子	川村学園女子大学 教育学部 幼児教育学科 教授
飛田 毅	自治連合会 会長
松本 千代子	社会福祉協議会 会長
中野 七生	P T A連絡協議会
秋本 茂雄	農業研究会 副会長
宇賀 弘通	商工会 総代
近藤 恭子	母子保健推進員協議会 副会長
宇賀 博	公募
酒井 啓史	公募
中原 恵子	公募
福田 純子	公募
若旅 千秋	公募

任期：令和2年11月20日から令和5年11月19日まで

### 3 令和5(2023)年度外部評価の結果

#### (1) 評価結果の総括

##### ア Aグループ

###### ① 評価体制

関谷会長、野水副会長、鎌田委員、酒井委員、中原委員、飛田委員、中野委員、宇賀（博）委員、若旅委員

###### ② 総合評価

###### 【戦略1-2 働く場を生み出すまちづくり】

最終評価：B

A 委員	B 委員	C 委員	D 委員	E 委員	F 委員	G 委員	H 委員	I 委員
B	C	B	C	C	B	B	B	B

###### 【戦略3-3 拠点を結ぶまちづくり】

最終評価：B

A 委員	B 委員	C 委員	D 委員	E 委員	F 委員	G 委員	H 委員	I 委員
B	C	B	C	C	C	B	B	B

##### イ Bグループ

###### ① 評価体制

関谷会長、野水副会長、手塚委員、福田委員、近藤委員、秋本委員、松本委員、宇賀（弘）委員

###### ② 総合評価

###### 【戦略2-1 「かかわれる農」のまちづくり】

最終評価：C

J 委員	K 委員	L 委員	M 委員	N 委員	O 委員	P 委員	Q 委員
B	C	C	C	C	C	C	B

###### 【戦略2-2 みどりを育み活かすまちづくり】

最終評価：B

J 委員	K 委員	L 委員	M 委員	N 委員	O 委員	P 委員	Q 委員
B	B	B	B	B	B	C	B

※最終評価は、各グループの委員間での協議の上、当審議会として決定した最終的な総合評価です。



## (2) 施策別の評価結果

### 【戦略1-2 働く場を生み出すまちづくり】

重点戦略	1 若い世代定住プロジェクト
主担当部	市民環境経済部
目標実現に向けた取組	○工業団地などへの就業支援 ○異業種・異分野間のネットワークづくりによる交流・連携の支援 ○起業希望者に対する相談・支援
内部評価 (進捗状況)	おおむね順調
外部評価 結果	総合評価は「B評価(やや優れている)」とし、今後に向けて以下の改善点を提案する。 ① 企業誘致について、地区まちづくり協議会で進められているが、市が目指すイメージや進捗状況について、可能な範囲で情報発信すること。 ② 地域の暮らしや就労等をめぐる白井の特徴を積極的に描き、就労ニーズ、創業ニーズ、若者のニーズを明確にし、具体的に示していくこと。 ③ 成田空港の機能拡張の完成年度に合わせるなど、企業誘致の期限を決めて、他の施策との連動を図り、一体的に進めること。

### 【戦略2-1 「かかわれる農」のまちづくり】

重点戦略	2 みどり活用プロジェクト
主担当部	市民環境経済部
目標実現に向けた取組	○多様な形態の農業経営と担い手の支援 ○農商工や産官学の連携による農産物の高付加価値やブランド化 ○白井産農産物の販売や販売形態の充実 ○だれもが農に親しめる環境づくり
内部評価 (進捗状況)	遅れている
外部評価 結果	総合評価は「C評価(やや劣っている)」とし、今後に向けて以下の改善点を提案する。 ① 農業振興のトータル的なコンセプトとロードマップを明確にし、具体的な戦略のもとに施策を展開していくこと。 ② 新規就農者・若者後継者など農にかかわるターゲット層に応じた支援・連携を図ること。 ③ 販路拡大や6次産業化に向けた積極的な働きかけを行い、市内外の関係者・希望者が積極的に携わっていくことができる道筋を作っていくこと。 ④ 梨農家が減少していく将来を見越した上で、梨のブランド化の必要性を農家に理解してもらうよう進めること。

### 【戦略2-2 みどりを育み活かすまちづくり】

重点戦略	2 みどり活用プロジェクト
主担当部	市民環境経済部
目標実現に向けた取組	<p>○白井の自然環境の豊かさを知り育むための環境学習の推進</p> <p>○市民によるみどりのネットワークづくりに対する支援</p> <p>○地域での環境保全や創出の取組としてのグラウンドワークの推進</p> <p>○自然とのふれあいや癒しの場としての里山の保全と活用</p>
内部評価 (進捗状況)	おおむね順調
外部評価 結果	<p>総合評価は「B評価(やや優れている)」とし、今後に向けて以下の改善点を提案する。</p> <p>① 市、市民、企業等、関係団体同士が連携することで何ができるかを検討するプラットフォームの形成を図ること。</p> <p>② 活動に参加する市民の高齢化が懸念されるが、市としても市民活動が無理なく安全に継続できるよう対応策を講じること。</p> <p>③ 市民が環境を意識した日常生活を送ることができるようにするための効果的なPRや、新たな担い手の発掘を行うこと。</p>

### 【戦略3-3 拠点を結ぶまちづくり】

重点戦略	3 拠点創造プロジェクト
主担当部	都市建設部
目標実現に向けた取組	<p>○幹線道路沿道などにおける開発誘導</p> <p>○都市拠点と各地域を結ぶ道路ネットワークの構築</p> <p>○利便性の良い公共交通ネットワークの確保</p>
内部評価 (進捗状況)	おおむね順調
外部評価 結果	<p>総合評価は「B評価(やや優れている)」とし、今後に向けて以下の改善点を提案する。</p> <p>① 「拠点」の定義について部署によって捉え方が異なることや、市民目線、行政目線など視点によっても異なるため、「拠点」の考え方を明確化すること。</p> <p>② 道路の計画や整備状況などを定期的に市民に情報発信すること。</p> <p>③ バス・鉄道・道路などのそれぞれの取組みを「点」から「線」、「面」で捉え、広域的な視点を持って進めること。</p>

## 4 各委員の評価結果

### 【戦略1-2 働く場を生み出すまちづくり】

#### ■A 委員

項目	内容	評価	その他の視点（自由記入）
取組状況	目標実現に資する取組となっているか。	B	
	市民ニーズに即した取組となっているか。	A	
	各分野間で必要な連携が図られているか。	C	現段階では工業統計の結果が出ていないので評価できない。農業との連携もみえない。
	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	A	
成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。	B	
	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	B	
改善	問題・課題が的確に捉えられているか。	B	
	今後の方向性・進め方は的確か。	A	
分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	B	
総合評価	施策の総合評価	B	

《今後に向けた改善提案等》

・成田空港の機能拡張の完成年度に合わせるなど、企業誘致の期限を決めて、戦略1-2、戦略3-3を一体的に進めてほしい。

#### ■B 委員

項目	内容	評価	その他の視点（自由記入）
取組状況	目標実現に資する取組となっているか。	B	
	市民ニーズに即した取組となっているか。	B	就業希望者に対応出来ているか（高齢者以外の応募はあるのか）
	各分野間で必要な連携が図られているか。	C	ネットワークの構築
	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	C	若者が定着出来る施策を（娯楽施設等の誘致）
成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。	C	野菜工場等の構築
	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	B	

改善	問題・課題が的確に捉えられているか。	B	後継者問題
	今後の方向性・進め方は的確か。	C	観光農園の構築
分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	C	セミナーや講演会などの情報発信
総合評価	施策の総合評価	C	

《今後に向けた改善提案等》

--

■C 委員

項目	内容	評価	その他の視点（自由記入）
取組状況	目標実現に資する取組となっているか。	A	
	市民ニーズに即した取組となっているか。	A	
	各分野間で必要な連携が図られているか。	C	
	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	C	
成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。	B	
	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	B	
改善	問題・課題が的確に捉えられているか。	B	
	今後の方向性・進め方は的確か。	B	
分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	A	
総合評価	施策の総合評価	B	

《今後に向けた改善提案等》

--

■D 委員

項目	内容	評価	その他の視点（自由記入）
取組状況	目標実現に資する取組となっているか。	B	
	市民ニーズに即した取組となっているか。	B	
	各分野間で必要な連携が図られているか。	C	各分野・部署の意見等、連絡調整を担う部署が必要ではないか
	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	B	

成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。	C	長期的な目標の為、成果が見えづらいのと思います。
	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	B	各部署によって分析はされていると感じる。
改善	問題・課題が的確に捉えられているか。	B	
	今後の方向性・進め方は的確か。	C	白井市のアピールポイントを明確にする。 特性を活かした地区わけの実施
分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	C	専門用語など多く、伝わりにくいと感じる。
総合評価	施策の総合評価	C	取り組みはされている事は、理解しましたが成果につながっていない。

《今後に向けた改善提案等》

・1つの案件に対し、複数の取り組みが見えており課題の整理が必要と感じました。白井市として働く場を増やし求人に繋げるのか、その先の定着・定住に繋げるのかシンプルにしてくのがいいように感じました。

#### ■E 委員

項目	内容	評価	その他の視点（自由記入）
取組状況	目標実現に資する取組となっているか。	B	
	市民ニーズに即した取組となっているか。	C	そもそも企業ニーズ・就労ニーズが明確にされていない。
	各分野間で必要な連携が図られているか。	B	
	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	C	
成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。	C	若い世代のニーズが必ずしも明確になっていない。
	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	B	
改善	問題・課題が的確に捉えられているか。	D	若者の就労機会の創出や起業へ向けた包括的支援をめぐる戦略的視点が根本的に欠けている。
	今後の方向性・進め方は的確か。	C	
分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	B	
総合評価	施策の総合評価	C	働く場・機会・環境をめぐる総合的・有機的な組み立てが弱い。

《今後に向けた改善提案等》

・企業誘致にストーリー性を作り出すことで、地域産業の求心力と具体性を高める必要がある。地域の暮らしや就労をめぐる白井の特徴を積極的に描き、若い世代にとって何が魅力的なのかを具体的に示していく必要がある。総じて、行政と産業・研究・市民が創意工夫を發揮し、具

体的な動きを創出するプラットフォームを形成・運用していくことが求められていると思われる。

### ■F 委員

項目	内容	評価	その他の視点（自由記入）
取組状況	目標実現に資する取組となっているか。	C	地区まちづくり協議会等、どのように進捗しているか情報発信が必要である。
	市民ニーズに即した取組となっているか。	B	ニーズに即した取組が成果となっているかの検証も必要となる。
	各分野間で必要な連携が図られているか。	C	各分野間での情報発信、連携する事業内容が今一つ分かり難い。
	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	B	地区まちづくり協議会についても意識調査などによりニーズの把握が必要で、情報共有の有効性は見え難い。
成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。	C	目標値の設定が無く、また、実績が下がっている事業もあり対策が必要となる。
	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	B	実績値が低下している事業もあり、再度検証が必要である。
改善	問題・課題が的確に捉えられているか。	B	施策を分かり易く提示する必要がある。
	今後の方向性・進め方は的確か。	B	若い世代にとって魅力ある産業や雇用創出に繋がるよう施策を展開してもらいたい。
分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	C	専門的な用語というより、情報公開により施策の内容等を提供する必要がある。
総合評価	施策の総合評価	B	

《今後に向けた改善提案等》

- ①企業立地奨励金制度の取組みは課題を整理しているが、対象は「市街化区域に事務所を設定した事業者への支給」となっており、現在「空地が無い」中で目標値（指標）もなく、必ずしも有効な施策とは言い難いと思われ、当後期計画の中で更なる検討が必要と考える。
- ②事業の指標が設定されていないものがあり、着実に進んでいるとは言い難いところもある。「情報発信ツール」や部署間の連携、また昨年同様、見せ方の工夫も必要であると考えます。
- ③求める成果は「若い世代にとって魅力ある産業や雇用が整い、職住接近が進む」であることから、分かり易く、魅力ある伝達方法で発信して貰いたい。

### ■G 委員

項目	内容	評価	その他の視点（自由記入）
取組状況	目標実現に資する取組となっているか。	B	既存の空き地や取得予算がない制約下において、まちづくり条例で民有地のマッチングを支援するというのは、妥当な現実解として評価します。
	市民ニーズに即した取組となっているか。	B	市民目線では、コンパクトシティである白井市内の土地利用が最適化され、ポテンシャルが最大化されることを望んでいます。
	各分野間で必要な連携が図られているか。	B	市の掲げる「異業種・異分野間の交流やネットワークづくりを進め、新しい産業の創出」がより具体的な成功事例を発信出来ることを望みます。
	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	C	地区まちづくり協議会は、性質上どうしてもクローズドになると思うが、上記の市民ニーズを上手く吸い上げて推進の追い風にしてほしい。

成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。	A	地区まちづくり協議会が着実に設立されてきていること、市がコーディネート役を務めていることを評価します。
	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	A	的確だと思います。
改善	問題・課題が的確に捉えられているか。	B	駅周辺に居住する若い世代と、工業団地の就労層のミスマッチや、梨のまちとしての農業振興とのバランスなども、課題なのかなと感じました。
	今後の方向性・進め方は的確か。	B	上記のような課題を踏まえた改善策がどこまで具体的になっているのかが、わかりにくい。
分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	C	審議会での多くの市民から指摘のあったとおり、市が目指すイメージが市民に届いているとは言い難いので発信力強化を検討してほしい。
総合評価	施策の総合評価	B	「市民等との役割分担」「市民等も理解しやすい表記」に改善の余地を認めます。

《今後に向けた改善提案等》

--

#### ■H 委員

項目	内容	評価	その他の視点（自由記入）
取組状況	目標実現に資する取組となっているか。	C	
	市民ニーズに即した取組となっているか。	B	地域に雇用を確保していく、重要な施策としての位置づけがまだ弱いのではないかな。
	各分野間で必要な連携が図られているか。	C	市内だけでなく、隣接市、県との連携の中で、補完的な関係性を構築して進める必要がある。
	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	B	産業振興ネットワーク会議の活動の広がりを活かしていけないだろうか。
成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。	C	具体的に雇用に結びつく取り組みとなっていなかったが、最近は見直しが進んで来ている。
	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	C	
改善	問題・課題が的確に捉えられているか。	B	
	今後の方向性・進め方は的確か。	B	人口減少社会の中で、白井市だけでなく、鎌ヶ谷市、印西市との連携強化を模索する。
分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	C	
総合評価	施策の総合評価	B	地域に安定した雇用と納税を確保していく上の重要課題との位置づけを明確にして進めつつある。

《今後に向けた改善提案等》

--

■ I 委員

項目	内容	評価	その他の視点（自由記入）
取組状況	目標実現に資する取組となっているか。	A	
	市民ニーズに即した取組となっているか。	A	
	各分野間で必要な連携が図られているか。	A	地区まちづくり協議会との更なる連携を望みます。
	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	B	
成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。	A	
	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	B	
改善	問題・課題が的確に捉えられているか。	B	
	今後の方向性・進め方は的確か。	A	
分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	B	
総合評価	施策の総合評価	B	

《今後に向けた改善提案等》

- ・ 相談、支援策等実施している事業のPRを拡げ、より多くの市民に周知してほしい。



**【戦略3-3 拠点を結ぶまちづくり】**

**■A 委員**

項目	内容	評価	その他の視点（自由記入）
取組状況	目標実現に資する取組となっているか。	B	
	市民ニーズに即した取組となっているか。	A	
	各分野間で必要な連携が図られているか。	B	
	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	A	
成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。	B	
	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	C	原因の分析が不十分
改善	問題・課題が的確に捉えられているか。	B	
	今後の方向性・進め方は的確か。	B	
分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	B	
総合評価	施策の総合評価	B	

《今後に向けた改善提案等》

・成田空港の機能拡張の完成年度に合わせるなど、企業誘致の期限を決めて、戦略1-2、戦略3-3を一体的に進めてほしい。

**■B 委員**

項目	内容	評価	その他の視点（自由記入）
取組状況	目標実現に資する取組となっているか。	B	アクセス道路整備の取り組みは進んでいるようだがインターチェンジ周辺の取組は物流が動き出し道路混雑対応として早期実施を
	市民ニーズに即した取組となっているか。	B	既存の計画路線の進捗状況は、又、小学校区まちづくりは4件目、5件目と推移しているが拠点となる街づくり協議会の推移は
	各分野間で必要な連携が図られているか。	C	
	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	C	市民に対しての情報や施策が伝わっていない。
成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。	B	各種団体や関係者に情報が伝わっていない。
	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	B	

改善	問題・課題が的確に捉えられているか。	B	
	今後の方向性・進め方は的確か。	B	
分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	C	
総合評価	施策の総合評価	C	

《今後に向けた改善提案等》

--

■C 委員

項目	内容	評価	その他の視点（自由記入）
取組状況	目標実現に資する取組となっているか。	B	
	市民ニーズに即した取組となっているか。	B	
	各分野間で必要な連携が図られているか。	C	
	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	C	
成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。	B	
	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	A	
改善	問題・課題が的確に捉えられているか。	A	
	今後の方向性・進め方は的確か。	B	
分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	A	
総合評価	施策の総合評価	B	

《今後に向けた改善提案等》

--

■D 委員

項目	内容	評価	その他の視点（自由記入）
取組状況	目標実現に資する取組となっているか。	B	
	市民ニーズに即した取組となっているか。	C	
	各分野間で必要な連携が図られているか。	C	各部署での求めている達成値や、関わり方が違う為に取り組んでいるも、そこから先の連携が難しいのかと感じました。

	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	B	
成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。	C	
	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	B	
改善	問題・課題が的確に捉えられているか。	B	
	今後の方向性・進め方は的確か。	C	縦のつながりはあるも、各部署の横の連携は難しいのかと思いましたが、各部署の意見を取りまとめる調整部署等があると良いのかと思いました。
分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	C	専門用語など多く、伝わりにくいと感じる。
総合評価	施策の総合評価	C	

《今後に向けた改善提案等》

・拠点を結ぶという事で、市民目線の拠点・行政目線の拠点等、複数の拠点の解釈や受け取り方によって方向性が変わってしまうのかと思います。白井市が強く押していきたい拠点が何なのか明確にさせていただいた方が、委員として踏み込んだ回答なり意見が出せる気がしました。

■E 委員

項目	内容	評価	その他の視点（自由記入）
取組状況	目標実現に資する取組となっているか。	C	産業機能の集積に向けたビジョンの説明がない。
	市民ニーズに即した取組となっているか。	B	
	各分野間で必要な連携が図られているか。	C	
	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	C	交通弱者への視点が弱い。
成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。	C	
	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	C	拠点をめぐる理解が曖昧なので、どのような政策連携がどのような効果を生むのかということが整理されていない。
改善	問題・課題が的確に捉えられているか。	D	拠点をめぐる理解が散漫であり、何をいかに結ぶのかという包括的・戦略的視点が欠如している。
	今後の方向性・進め方は的確か。	C	
分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	B	
総合評価	施策の総合評価	C	

《今後に向けた改善提案等》

・道路・交通・産業に関連する拠点を結ぶことで、各々の賑わいを創出するとして、何をもっての賑わいなのか、それらがどのように結びつくと何が変わるのか、重層的・立体的に考える必要がある。成長的視点と福祉的視点を融合させた多角的ネットワークをトータルに構想し、そのなかで個々の取り組みを位置付けていくことが求められていると思われる。

■F 委員

項目	内容	評価	その他の視点（自由記入）
取組状況	目標実現に資する取組となっているか。	C	成果（長期成果）に向かっているかについて、現時点では明確ではない。
	市民ニーズに即した取組となっているか。	B	ニーズに適しているかは把握されていない。更なる検証が必要。
	各分野間で必要な連携が図られているか。	C	各分野の連携は分かり難い。「構想道路」の意思決定が不明確である。
	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	B	更なる市民の情報把握が必要
成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。	C	実績が下がっている事業もあり、更なる対策を検討する必要がある。
	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	B	評価指標の設定が無い事業あり。「評価基準」だけでは原因が分かり難い。
改善	問題・課題が的確に捉えられているか。	B	課題は整理されているが、目標値（指標）がなく、後期計画での実施成果も見え難い。
	今後の方向性・進め方は的確か。	C	施策の目標値が定められていない事業あり、成果も分かり難く改善も必要とされる。
分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	C	施策が分かりやすく説明されていないものがあり、具体的な施策（事業）として伝わって来ない。情報伝達の工夫もされたい。
総合評価	施策の総合評価	C	

《今後に向けた改善提案等》

- ①企業立地奨励金制度の取組は課題を整理しているが、目標値（指標）がなく、後期計画で検討・実施が不明である。
- ②構想道路の最終目標、“企業の誘致”には一定の理解があるが、当基本・実施計画で施策実現に向け分かり易く提示する必要がある。担当部局間の連携、目標値の設定や市民への早急な周知が必要となる（政策決定し計画道路として進める必要が考えられる）。
- ③バス交通のニーズについては、インフラ整備と共により有益となることが想定されるため、今後とも実情を踏まえ利用促進に繋げられたい。

■G 委員

項目	内容	評価	その他の視点（自由記入）
取組状況	目標実現に資する取組となっているか。	B	取組が、企業目線（構想道路）と、住民目線（鉄道・バス）とに2極化している構図のため、戦略として一体で評価する難しさを感じました。
	市民ニーズに即した取組となっているか。	B	産業道路ではない。市民ニーズに即した道路整備への熱量が弱く感じました。鉄道・バスについては概ねよいと思います。
	各分野間で必要な連携が図られているか。	C	「拠点」という定義一つとっても、市役所内の各部署で捉え方が異なる印象でした。大きな課題と感じ

			ました。
	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	C	木十余一線以外の、市民生活に密着した道路整備については、事業の進捗が見えないので、もっと情報共有をしてほしいと感じます。
成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。	B	定量的評価を見るに目標値の点ではクリアしているように見えますが、市民の肌感覚と合致しているかという面においてはやや疑問が残る。
	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	B	北総線の値下げPRや、バスロケーションシステム導入決定以外の進捗状況は、現段階ではなかなかわかりにくい。
改善	問題・課題が的確に捉えられているか。	A	ネットワーク整備が中長期的な取り組みとならざるを得ない点や、人口構造の変化を考慮する点は、同意します。
	今後の方向性・進め方は的確か。	B	各論では的確なのだと思うが、それはいわば「点」なので、「線」「面」で捉えてほしい。
分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	C	構想道路の整備によって市が目指す戦略ビジョンはもっとアピールしてほしいと思う。
総合評価	施策の総合評価	B	期待を上回るとまでは言えないが、予算的制約が大きい中での進捗としては妥当かと思う。

《今後に向けた改善提案等》

<ul style="list-style-type: none"> <li>・「都市拠点と各地域の拠点をネットワーク化」という取組目標を掲げているが、内容は抽象的。これをもっと具体的に、市民に対してわかりやすいイメージを描いて伝え、期待と魅力を高めてほしい。</li> </ul>
---

## ■H委員

項目	内容	評価	その他の視点（自由記入）
取組状況	目標実現に資する取組となっているか。	B	
	市民ニーズに即した取組となっているか。	B	北総鉄道の運賃について、学割は大幅に下がり、今後も、事業者と強調して利用者を増やし、一層の運賃値下げへと移行させる取り組みを進める。
	各分野間で必要な連携が図られているか。	B	
	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	C	進まない道路に関しては、年に一回程度状況の説明を広報紙に載せてみてほしい。
成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。	B	工業団地へのルート、七次台小学校への通学路等、重要な道路が事情はあるでしょうが止まったままになっており、臨時的な解決も期待したい。
	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	B	
改善	問題・課題が的確に捉えられているか。	B	道路計画にも財政的な裏付けが必要で、税収増となる企業誘致も含めて
	今後の方向性・進め方は的確か。	A	道路の整備は、現状重要な課題ですので、今後も継続的に取り組む必要がある。
分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	B	

総合評価	施策の総合評価	B	
------	---------	---	--

《今後に向けた改善提案等》

・隣接2市（鎌ヶ谷市と印西市）とは今後も一層緊密な連携をしていく必要があります。鉄道運賃、道路網の整備、企業誘致等々3市が一体となって取り組むことが必要になることが多くなることではないでしょうか。  
また、老朽化していく公共施設の維持管理と役割分担も含めて30万弱の都市圏としての将来像を描く機会が必要と思います。  
白井市の3分の1の広さの鎌ヶ谷市、鎌ヶ谷市と白井市を合わせた広さの倍以上の広さの印西市。人口が減り、市民が急速に高齢化していく中でのかじ取りを進める中での都市間連携を一つのモデルと進めてみてはと思いました。

## ■ I 委員

項目	内容	評価	その他の視点（自由記入）
取組状況	目標実現に資する取組となっているか。	B	
	市民ニーズに即した取組となっているか。	B	
	各分野間で必要な連携が図られているか。	A	鉄道事業者や沿線地域との連携は引き続き強固な関係を築いてほしい。
	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	B	
成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。	B	
	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	B	
改善	問題・課題が的確に捉えられているか。	B	
	今後の方向性・進め方は的確か。	B	
分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	B	
総合評価	施策の総合評価	B	

《今後に向けた改善提案等》

・各バス停にバスロケーションシステムのサイネージを設け、コミュニティバス利用者の利便性をさらに向上させ、利用者増加の足掛かりにできないか。

**【戦略2-1 「かかわれる農」のまちづくり】**

**■J委員**

項目	内容	評価	その他の視点（自由記入）
取組状況	目標実現に資する取組となっているか。	C	新規就農者支援講座を継続して欲しい。研修先農家の熱意を感じた。
	市民ニーズに即した取組となっているか。	B	17名参加者に新規就農者になってもらうよう、これからも支援・アピールしてください。
	各分野間で必要な連携が図られているか。	C	
	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	B	川の学校、けやき台ビオトープ観察会、体験学習実施の評価
成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。	C	白井市の就業者が、講習された結果、受講生の反応はどうですか。 新規就農者を開拓するのは困難ですね。
	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	B	問題を捉えられていると思うが、的確に問題解決することが必須ですね。（困難だと思う。）
改善	問題・課題が的確に捉えられているか。	C	農地のこと。市民に今の現状は理解されているか？（梨畑も縮小されている。）
	今後の方向性・進め方は的確か。	B	
分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	B	解りやすい記載だと思う。
総合評価	施策の総合評価	B	研修のあり方に工夫が見られる。

《今後に向けた改善提案等》

--

**■K委員**

項目	内容	評価	その他の視点（自由記入）
取組状況	目標実現に資する取組となっているか。	C	就農支援事業者においては、企業支援のみならず、定着支援も必要だと思われるが、目標実現が難しい状況と見受けられる。今後は目標設定の見直しも再考する必要があると思われる。
	市民ニーズに即した取組となっているか。	B	市民農園・体験農園開設支援事業において、高い利用率を確保できているのは評価できる。
	各分野間で必要な連携が図られているか。	C	
	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	C	
成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。	C	一部の事業では成果が上がっているものもあるが、主たる事業での成果が見受けられない。
	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	B	

改善	問題・課題が的確に捉えられているか。	B	
	今後の方向性・進め方は的確か。	C	問題点、課題等は理解されていると思われるが、効果的な解決策が見いだせないでいると思われる。
分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	C	
総合評価	施策の総合評価	C	

《今後に向けた改善提案等》

--

### ■L委員

項目	内容	評価	その他の視点（自由記入）
取組状況	目標実現に資する取組となっているか。	B	成果目標が農地を守ることであればスピード感が重要であると思われる。
	市民ニーズに即した取組となっているか。	B	農地や緑を残すことは、自然の豊かな白井市を維持していくことになる。
	各分野間で必要な連携が図られているか。	C	
	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	C	白井市がどの程度まで地域の農業に介入できているのかが不透明
成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。	C	定性的評価を見る限りでは、全ての取組において、かなり遅れている。
	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	C	改善が難しい点を主な原因としているため、解決策を見出しにくい。
改善	問題・課題が的確に捉えられているか。	B	
	今後の方向性・進め方は的確か。	B	地域計画（平塚）は重要課題。梨農家が減少していく中で、この先5年後、10年後も梨作りに関わる農家のために、「しろいの梨ブランドイメージ」を発信し続けていくべきである。
分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	B	
総合評価	施策の総合評価	C	みどりの豊かな白井に農業は必要。特に梨畑は白井市の資源ではないか。白井の自然環境と農を守り、次世代につなぐために重要な施策と考えるので、根気よく継続して行ってほしい。

《今後に向けた改善提案等》

--

### ■M委員

項目	内容	評価	その他の視点（自由記入）
取組状況	目標実現に資する取組となっているか。	B	
	市民ニーズに即した取組となっているか。	C	



	各分野間で必要な連携が図られているか。	C	
	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	C	
成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。	B	
	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	B	
改善	問題・課題が的確に捉えられているか。	D	生産と消費の多角的な結びつきをめぐる本格的な分析が欠けている。
	今後の方向性・進め方は的確か。	B	
分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	B	
総合評価	施策の総合評価	C	農を多角的に拓き、様々な立場がかかわれる入り口・架橋・支援が不足している。

《今後に向けた改善提案等》

・農業振興のトータルなコンセプトとロードマップを明確にし、具体的な戦略のもとに施策を展開していく必要がある。新規就農者・若者後継者など農にかかわるターゲット層に応じた支援・連携を図る必要がある。販路拡大や6次産業化に向けた積極的な働きかけや架橋を行い、市内外の関係者・希望者が積極的に携わっていくことができる道筋を作っていく必要がある。

#### ■N委員

項目	内容	評価	その他の視点（自由記入）
取組状況	目標実現に資する取組となっているか。	C	目標があるので取り組みはsしているが、白井市の大きな戦略としての柱と位置付けていくことが難しい状況。
	市民ニーズに即した取組となっているか。	C	声として『白井のなし』への愛着があるので、若手生産者の声が届く施策を積み上げていくこととは思う。
	各分野間で必要な連携が図られているか。	B	若手生産者がネットワークを築き、他の地域の成功事例を導入できるような仕組みを産業振興ネットワーク会議棟でも導入する。
	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	C	
成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。	C	残念ながら成果は上がっていない。
	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	C	
改善	問題・課題が的確に捉えられているか。	C	当事者から建設的な問題提起がなされていない。
	今後の方向性・進め方は的確か。	C	

分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	C	とても分かりにくい状況。
総合評価	施策の総合評価	C	

《今後に向けた改善提案等》

--

### ■O委員

項目	内容	評価	その他の視点（自由記入）
取組状況	目標実現に資する取組となっているか。	B	
	市民ニーズに即した取組となっているか。	C	
取組状況	各分野間で必要な連携が図られているか。	C	連携が取れているとは思えない。
	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	C	梨のブランド化についても今の目先のことでなく、梨農家が少なくなる前にするからこそ意義がある旨を周知できていない。
成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。	C	成果が上がっているとは思えない。
	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	B	
改善	問題・課題が的確に捉えられているか。	C	
	今後の方向性・進め方は的確か。	B	本当に、今後白井市内の農家や農に関わる人々に何をしたいのか（何か必要なのか）が理解されていないのではないか。
分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	B	
総合評価	施策の総合評価	C	

《今後に向けた改善提案等》

<p>・梨のブランド化は、今は出荷数が多く、市場での価値が高いかもしれないが、このまま白井市内の梨農家が少しずつ減少すれば、市場が思っている出荷数を出せずに衰退する可能性がある。今、梨農家がある程度いる状態だからこそその市場価値なので、将来を見越したうえで、梨のブランド化が必要なことを農家に理解してもらっていない。また、移住者が農業をされている市町村の事例を学び白井でできることを導入する等の検討等。</p>
---

### ■P委員

項目	内容	評価	その他の視点（自由記入）
取組状況	目標実現に資する取組となっているか。	C	
	市民ニーズに即した取組となっているか。	C	
	各分野間で必要な連携が図られているか。	C	

	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	C	
成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。	C	
	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	C	
改善	問題・課題が的確に捉えられているか。	C	
	今後の方向性・進め方は的確か。	C	
分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	C	
総合評価	施策の総合評価	C	

《今後に向けた改善提案等》

--

■Q委員

項目	内容	評価	その他の視点（自由記入）
取組状況	目標実現に資する取組となっているか。	B	
	市民ニーズに即した取組となっているか。	B	
	各分野間で必要な連携が図られているか。	B	
	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	B	
成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。	B	
	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	B	
改善	問題・課題が的確に捉えられているか。	B	
	今後の方向性・進め方は的確か。	B	
分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	B	
総合評価	施策の総合評価	B	

《今後に向けた改善提案等》

--

**【戦略2-2 みどりを育み活かすまちづくり】**

**■J委員**

項目	内容	評価	その他の視点（自由記入）
取組状況	目標実現に資する取組となっているか。	B	
	市民ニーズに即した取組となっているか。	A	環境学習の推進事業 特に体験学習が良い。継続して欲しい。
	各分野間で必要な連携が図られているか。	A	市と市民共同で進めている様子がうかがえる。 関係団体で横のつながりがある。
	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	A	市の説明（環境を守るとともに緑を生かした取り組みが良い。）
成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。	B	
	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	B	現場の声を聞いていないのでB
改善	問題・課題が的確に捉えられているか。	B	
	今後の方向性・進め方は的確か。	A	
分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	A	
総合評価	施策の総合評価	B	市民と生徒の協力を評価した。 谷田・清戸市民整備は今後も期待できる。

《今後に向けた改善提案等》

--

**■K委員**

項目	内容	評価	その他の視点（自由記入）
取組状況	目標実現に資する取組となっているか。	B	市民を主体とした日頃の積み重ねの活動であり、SDGs の考え方も視野に入れた目標実現に資する取組だと思われる。
	市民ニーズに即した取組となっているか。	B	活動の担い手は、やや高齢者層が多いように見受けられるが、市民ニーズに即した取組であると思われる。
	各分野間で必要な連携が図られているか。	C	個々の団体の連携づくりは今後に期待されると思われる。
	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	C	現状では、一定の市民同士や団体内での情報共有にとどまっているように見受けられる。
成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。	B	継続して行うことで成果を見いだせる事業が多いため、顕著に表れているわけではないが、裾野は広がりつつあると考えられる。
	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	B	

改善	問題・課題が的確に捉えられているか。	B	長期間の活動においては、新たな課題が生じることもあるため、より活動団体との密接な情報交換をもとに様々な声を把握することが望まれる。
	今後の方向性・進め方は的確か。	C	
分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	C	現状では、活動団体内での情報共有にとどまっているように見受けられる。活動内容をさらに幅広くPRできる仕組みを構築すると良いと考える。
総合評価	施策の総合評価	B	

《今後に向けた改善提案等》

・「沿道みどりの推進事業」は年々活動団体も増え、補助金を使わなくても自力で緑化環境を育成し活動継続に取り組んでいる事例などからみても順調に成果を上げているものと思われる。このことから、PR方法として単なる活動紹介にとどまらず、「活動場所が一目でわかる市内マップ」や「見頃時期の一覧紹介」などに取組み、効果的にPRすることで新たな担い手の発掘や白井市の魅力発信、回遊プランの紹介に発展させられる資源になるものとする。また、「森のグラウンドワーク推進事業」においては、2017年の事業開始以来、市民団体が「市民に親しまれる花壇づくり」に継続して取り組まれていること自体、一定の成果が上げられていると思われる。しかしながら、会員に高齢化に伴い、安定した花壇の維持管理が難しくなりつつある点、とりわけ灌水作業の改善を求める声があることから、市としても市民活動が無理なく安全に継続できるよう対応策を考える必要があると思われる。

#### ■L委員

項目	内容	評価	その他の視点（自由記入）
取組状況	目標実現に資する取組となっているか。	B	白井の良質な自然環境を認識し、維持していく上で意味のある取組である。
	市民ニーズに即した取組となっているか。	B	みどりが身近にある白井では、環境学習や環境保全は必要である。小中学校での環境学習 etc
	各分野間で必要な連携が図られているか。	B	
	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	B	
成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。	C	
	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	C	
改善	問題・課題が的確に捉えられているか。	C	谷田・清戸市民の森整備事業は、隣接地権者との問題があるため、今後の課題の優先順位を設定し、方向性をもっとクリアにするべきである。
	今後の方向性・進め方は的確か。	C	
分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	B	
総合評価	施策の総合評価	B	森・里山・沿道など市民団体と協働して活動を行うことで、自然が管理され環境保全が保たれている。

《今後に向けた改善提案等》

--

■M委員

項目	内容	評価	その他の視点（自由記入）
取組状況	目標実現に資する取組となっているか。	B	
	市民ニーズに即した取組となっているか。	B	
	各分野間で必要な連携が図られているか。	C	分野を横断して、環境意識を醸成していく発想が弱く、政策連携にまで発展していない。
	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	C	
成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。	B	
	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	B	
改善	問題・課題が的確に捉えられているか。	C	環境や教育といった既存の枠組みにとらわれており、様々な場面において環境を意識できるような全庁的取り組みになっていない。
	今後の方向性・進め方は的確か。	B	
分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	B	
総合評価	施策の総合評価	B	

《今後に向けた改善提案等》

・市民が環境を意識した日常生活を送ることができるための情報発信を徹底させる。自然環境や生物多様性の保全をめぐる、市民や企業がどのように関わるができるか、連携して何ができるかを検討できるプラットフォームの形成が必要である。具体的な取り組みは、「みどり」を通じて学び・働き・地域を豊かにする点で、相互に有機的なつながりを持って捉えられていくことが期待される。

■N委員

項目	内容	評価	その他の視点（自由記入）
取組状況	目標実現に資する取組となっているか。	B	市民レベルでの、小さな運動は根付いてはいる。
	市民ニーズに即した取組となっているか。	B	緑の維持管理に高齢化する中で担い手を確保していくことが難しくなっていく。
	各分野間で必要な連携が図られているか。	B	
	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	C	
成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。	B	市民参加型の一定の成果は得られてはいる。

	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	C	
改善	問題・課題が的確に捉えられているか。	C	継続的財政負担を軽減するために選択的公費投入と、自主取り組みの分野との切り分けが今後必要。
	今後の方向性・進め方は的確か。	C	まちづくり協議会の活動の中で、この分野への取り組みが『緑の里』として進んで行ければとは思う。
分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	C	
総合評価	施策の総合評価	B	

《今後に向けた改善提案等》

--

### ■O委員

項目	内容	評価	その他の視点（自由記入）
取組状況	目標実現に資する取組となっているか。	B	
	市民ニーズに即した取組となっているか。	B	
取組状況	各分野間で必要な連携が図られているか。	C	連携が取れているとは思えない。
	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	C	
成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。	B	
	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	B	
改善	問題・課題が的確に捉えられているか。	C	
	今後の方向性・進め方は的確か。	C	
分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	B	
総合評価	施策の総合評価	B	

《今後に向けた改善提案等》

<p>・緑に関しての活動に関しては、担当課の窓口におくだけでなく、積極的に提案し、会合等を行いながら、団体をつなぐ、もしくは人を増やすことが求められているのではないかと。緑を生かす農については、最近流行っているグランピング等も検討し、都心から近い立地を生かした活動もできるのではないかと。また、高齢者や障害者も含めた社会参加に繋げる工夫も必要なのではないかと。</p>
--

### ■P委員

項目	内容	評価	その他の視点（自由記入）
取組状況	目標実現に資する取組となっているか。	C	コミュニケーション不足により、他市町村より個人・団体への情報が伝わっていない。
	市民ニーズに即した取組となっているか。	C	井の中のカワズにならず、他の地域の事例も取り入れるべき。

	各分野間で必要な連携が図られているか。	C	白井地域では、自然や農への関心が低すぎる。教育の問題もあるのではないか。
	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	C	白井では、各団体の連携・協力がなさすぎる。特に福祉ボランティアがいない。
成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。	C	自然環境を維持するには、常に地域を監視していかなくてはならない。神崎川が大変な状況になっているのは知っているのか。
	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	C	
改善	問題・課題が的確に捉えられているか。	C	多くの人の賛同がなければ何もしないような意見があったが、価値の多様性の時代には合っていない。
	今後の方向性・進め方は的確か。	C	新事業は常に少数から行うのが常識である。やる気が感じられない。
分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	C	どんな事業も効果の検証をすべきで結果が悪ければ、方法を変えるべき。
総合評価	施策の総合評価	C	

《今後に向けた改善提案等》

--

#### ■Q委員

項目	内容	評価	その他の視点（自由記入）
取組状況	目標実現に資する取組となっているか。	B	
	市民ニーズに即した取組となっているか。	B	
	各分野間で必要な連携が図られているか。	B	
	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	B	
成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。	B	
	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	B	
改善	問題・課題が的確に捉えられているか。	B	
	今後の方向性・進め方は的確か。	B	
分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	B	
総合評価	施策の総合評価	B	

《今後に向けた改善提案等》

--



## 5 今後の外部評価に向けて

白井市の行政評価制度の充実に向けて、当審議会の総括的な意見を以下のとおり述べる。

- (1) 市が抱える諸問題の解決に向けて、トータルなコンセプトを浸透させながら、指標や目標値、目標年限を適切に設定して、目的達成に向けた戦略的な道筋を示すことによって、諸施策を具体的に展開していく必要がある。
- (2) 市民ニーズに真に合致し、市民が納得する施策を行っていくために、各施策のターゲット層に応じた取組みを行うとともに、分野にとらわれず各施策を連動して一体的に進める必要がある。
- (3) 現行の計画はどこに向かっていくのか、その努力や成果、改善点の総括を行い、何ができていて何ができていないのかを明確にした上で、PDCA（計画・実行・評価・改善）のサイクルによって、施策を前向きに循環させながら第6次総合計画につなげていく必要がある。
- (4) 総合計画が職員はもとより市民にとっても自分事の計画となり、市民も一緒になって連携・協力していく意識を醸成するため、学びや連携の場づくりを行うとともに、施策の推進が市民にとってどのようにメリットとなるのか、言葉的な表現を含めてわかりやすく示し、情報発信していく必要がある。
- (5) 限られた行政資源（人・物・金・情報・時間）を組織全体で最適に配分するために施策の優先順位をつけた上で、健康、福祉、教育、産業、環境、防災、都市、交通など各分野における施策のバランスを見直し、行政評価を適切に機能させていく必要がある。

# 参 考 資 料

施策評価シート(外部評価時点)

**1 基本情報**

施策名	1 - 2 働く場を生み出すまちづくり			戦略名	若い世代定住プロジェクト		
担当	主担当部	市民環境経済部	主担当課	産業振興課			
	部長名	岡田 光一	関係課				

**2 取組目標(Plan)**

取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>●農商工や産学官の連携などにより、産業の活性化を図り、若い世代の就業機会を広げます。</li> <li>●多様な世代が様々な活動の実践を通じて新たな事業を起こすなど、働ける場づくりを進めます。</li> </ul>
求める成果	若い世代にとって魅力ある産業や雇用が整い、職住近接が進む。 ⇒ゆとりあるライフスタイルを実現できるまちになる。

**3 令和4年(2022年)度取組状況(Do①)**

取組1 工業団地などへの就業支援						
取組方針	工業団地見学ツアーや高校・大学との連携などにより、市内外での市内企業の認知度を高め、市内での就業を促進します。また、近隣市と連携して市民の就業を支援します。					
求める取組成果	多様な産業構造が構築され、安定した雇用が確保される。					
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦略的で透明性のある企業誘致を行う仕組みが必要であることから、白井市企業誘致基本方針を策定し、企業誘致の進め方を体系化した。</li> <li>・白井市企業誘致基本方針に基づき、新たに「七次・白井木戸地区まちづくり協議会」「白井駅周辺地区まちづくり協議会」「西白井駅周辺地区まちづくり協議会」が設立した。</li> <li>・富ヶ谷地区まちづくり協議会の活動支援として、周辺4自治会住民等に対し、行政計画の説明等を実施した。</li> <li>・「法目上長殿地区における土地活用に向けた事業検討パートナー募集」を実施し、優先交渉者を選定した。</li> <li>・市内に立地した事業者等への優遇策である企業立地奨励金及び商業施設等立地奨励金制度をPRした。</li> <li>・参加者数や参加者の年齢層に課題のある就職マッチングイベントに代わる事業を模索するため、近隣の高校や大学にヒアリングを行い、新たな就職マッチング事業の検討を行った。</li> <li>・雇用を促進するために無料職業紹介所を運営するとともに、周辺自治体との共催により、若者向け、女性向け、高齢者向けの就職活動支援セミナーを開催した。</li> <li>・労使間のトラブルを防止するため、労働相談を実施した。</li> </ul>					
構成事業		事業名	評価	事業No	事業名	評価
	1	企業誘致推進事業	改善して継続	2	雇用労働支援事業	改善して継続

取組2 異業種・異分野間のネットワークづくりによる交流・連携の支援						
取組方針	農商工や産学官の連携をはじめ、事業者、市民団体などの交流・連携の機会をつくります。					
求める取組成果	多様な連携により技術革新や新産業の創出が進む。					
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学識経験者・産業経済団体・農業・商業・工業・公募市民・金融機関で構成する産業振興ネットワーク会議を開催し、白井市産業振興ビジョンに多様な産業集積を活かした異業種・異分野交流に係る施策を展開することを位置づけた。</li> </ul>					
構成事業	事業No	事業名	評価	事業No	事業名	評価
	3	異業種・異分野間交流・連携事業	改善して継続			

取組3 起業希望者に対する相談・支援						
取組方針	起業を希望する若い世代に対して関係機関と連携した相談・支援を行い、起業を支援します。					
求める取組成果	創業者が継続して安定的な事業活動を展開する。					
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営・創業なんでも相談を定期的で開催した。</li> <li>・市が策定した創業支援等事業計画に基づき、白井市商工会にてワンストップの創業相談支援及び創業塾を継続して開催した。</li> <li>・同計画に基づき、千葉県信用保証協会にて創業スクールを開催した。</li> </ul>					
構成事業	事業No	事業名	評価	事業No	事業名	評価
	4	創業支援事業	現状のまま継続			

**4 施策展開の状況(Do②)**

改善した取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・白井市企業誘致基本方針を策定し、「企業誘致推進事業」だけでなく、施策3-1都市拠点にぎわうまちづくりにおける「駅周辺地域活性化事業」、「工業専用地域振興事業」の進め方も体系化した。</li> <li>・就職マッチングイベントに代わるマッチング事業を検討し、令和5年度試験的に実施することとした。</li> </ul>
他分野他施策との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年金相談と連携して労働相談を実施した。</li> <li>・障害者就労相談と連携し、障がい者雇用を促進した。</li> </ul>
市民等との情報共有、参加・協働	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業誘致推進事業については、市まちづくり条例に基づく地区まちづくり協議会の制度により、地権者等で設立した地区まちづくり協議会との意見交換を交わしながら、市の行政計画に沿った地区の将来像づくりに向けて合意形成を進めている。</li> <li>・住宅地に隣接する産業用地候補地では、都市計画提案前の段階で周辺住民の理解が得られるよう十分な説明等を行った。</li> </ul>

5 施策推進コスト(Do③)						(千円、%)
年度 項目	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	
事業費	80,586	85,268	65,189	65,991	46,746	
正職員人件費	6,792	14,797	15,414	15,414	15,414	
合計	87,378	100,065	80,603	81,405	62,160	
プロジェクト内割合	6.3%	8.7%	5.0%	6.9%	5.4%	

6 1次評価 (Check①&Action①)						(目標値設定の考え方は白井市第5次総合計画後期基本計画書の80頁を参照ください)					
年度	項目	指標名	単位	基準値/基準年度	目標値	実績値					
					R7 (2025)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	
定量的評価	取組指標	進出(増設)企業数(累計)	社	-	-	10	2	2			
		製造業従業者数	人	4,019	H30 (2018)	4,100	-				
		製造業事業所数	事業所	146	H30 (2018)	150	-				
		卸売・小売業従業者数	人	3,105	H28 (2016)	3,200	-	3,276			
		卸売・小売業事業所数	事業所	274	H28 (2016)	280	-	264			
		起業者数(累計)	人	-	-	10	4	10			
	指標果	市内就業率	%	31.2	R1 (2019)	33.0	-	-			
定性的評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業誘致推進事業については、農業的土地利用を含めて5カ所の地区まちづくり協議会が設立されており、各協議会の進捗状況等を考慮して意見交換・調整を進めている。</li> <li>雇用労働支援事業については、アフターコロナに対応するためイベントに代わる取組を実施するため、高校等にヒアリングを行い令和5年度から試験的に実施することとした。</li> <li>創業支援については、起業を希望する人に対して、関係機関と連携した相談などを行い支援している。</li> </ul>								進捗状況	<input type="checkbox"/> 順調 <input checked="" type="checkbox"/> おおむね順調 <input type="checkbox"/> やや遅れている <input type="checkbox"/> 遅れている	
遅れている取組の原因	内部要因				外部要因						
施策を取り巻く環境の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>DXの推進や生活スタイルの変化、高齢化社会の進展などから、データセンターや物流などの需要が増えている。</li> <li>アフターコロナの働き方等が変化している。</li> </ul>										
課題	喫緊の課題				中長期的な課題						
施策の方向性(改善策)	短期的な方向性				中長期的な方向性						
進め方	<input type="checkbox"/> 行政の役割を拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 現在の行政と市民の役割分担・協働を維持 <input type="checkbox"/> 市民の役割・協働を拡大 企業誘致推進事業については地権者等との合意形成を図りながら、市の行政計画にあった計画としていく。また、雇用労働支援事業では、職業紹介を継続して進めるとともに、新たに検討した求人と求職マッチング方法を試験的に実施する。異業種・異分野間交流連携事業や創業支援事業については、交流や相談などの支援を継続して進めるとともに、市内経済循環につながるような取組を検討する。										

7 2次評価 (Check②&Action②)	白井市行政評価委員会による評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>働く場を生み出す仕組みとして企業誘致推進事業の取組みが進んでおり、この流れを農・商・工などの異業種にもつなげていく必要がある。</li> <li>雇用・労働支援事業については、若い世代がより簡便に求人情報にアクセスできるよう、事業者と連携協力し、デジタル化の取組を推進する必要がある。</li> <li>新たな企業の誘致に向けた取組を推進するとともに、既存の市内企業が市内で操業し続けられるよう、市内産業のさらなる活性化に向けた取組を進める必要がある。</li> </ul>	

8 3次評価 (Check③&Action③)	総合計画審議会による評価

9 3次評価の改善意見等への対応

**1 基本情報**

施策名	2 - 1 「かかわれる農」のまちづくり				戦略名	みどり活用プロジェクト			
担当	主担当部	市民環境経済部	主担当課	産業振興課					
	部長名	岡田 光一	関係課						

**2 取組目標 (Plan)**

取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>●農業をまちの活性化のための資源として積極的に支援し、生産と消費の経済循環など産業が連携する活力あるまちづくりを進めます。</li> <li>●農商工や産学官の連携、農産物の消費や農業体験など、市内外の人が多様な形で白井市の農にかかわれる取組を進めます。</li> </ul>
求める成果	魅力ある農業と農業に親しめる活動がバランスよく展開され、競争力ある産地を形成し、農業と農地を維持できる。 →農（業）による健全なみどりが豊かなまちになる。

**3 令和4年(2022年)度取組状況 (Do①)**

**取組1 多様な形態の農業経営と担い手の支援**

取組方針	地域での多様な形態での農業経営のしくみづくりを進めます。また、農業事業者と連携して新規就農者を育成するための講習会を開催するなど、農業の担い手づくりを進めます。					
求める取組成果	担い手が確保され、安定的な農業経営ができる環境が整う。					
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業委員会や県農業事務所と連携し、就農希望者への農地の斡旋や独立に向けた研修先農家の紹介などの支援を行った。</li> <li>・民間農業スクールと連携して新規就農者支援講座を開催し、16名の就農希望者等が参加した。</li> <li>・農業委員会と連携し、中心的担い手等への農地利用集積を行った。</li> <li>・平塚地区において地域計画（農業従事者の高齢化や担い手不足が進む中、5年後、10年後、誰がどのように農地を使って農業を続けていくのかを地区の話し合いに基づきまとめる計画）に係る話し合い等を実施した。</li> </ul>					
構成事業	1	就農支援事業	改善して継続	2	農地集積支援事業	改善して継続

**取組2 農商工や産学官の連携による農産物の高付加価値化やブランド化**

取組方針	農商工や産学官が連携することにより、付加価値の高い農産物の開発や販売ルートの確保を進めます。					
求める取組成果	白井産農産物の競争力が高まり、農業所得の向上、農業経営の安定化が進む。					
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「しろい梨」については、しろい梨ポータルサイトや地域情報サイト「しろいまっち」等での情報発信、農産物直売所マップの配布、電車内中吊り広告の掲出等様々なチャンネルを使ってPRを実施した。</li> <li>・コンビニエンスストア等と連携し、白井の農産物を活用した商品開発の検討。</li> </ul>					
構成事業	3	農産物ブランド化推進事業	改善して継続			

**取組3 白井産農産物の販売の場や販売形態の充実**

取組方針	駅周辺や地域のほか、近隣市をはじめ広域的に販売の場を充実するとともに、消費者ニーズに応じた販売形態の多様化を進めます。					
求める取組成果	白井産農産物の競争力が高まり、農業所得の向上、農業経営の安定化が進む。					
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな販売チャンネルに係る検討</li> <li>・コンビニエンスストア等と連携し、白井の農産物を活用した商品開発の検討。</li> </ul>					
構成事業	4	農産物流通販売拡大事業	改善して継続			

**取組4 だれもが農に親しめる環境づくり**

取組方針	農家などと連携して、市民農園・体験型農園の開設を支援するとともに、農業体験など農に触れる場づくりを進めます。					
求める取組成果	農地が有効に活用される。					
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間の市民農園（2園）を広報やHPで周知した。</li> <li>・農家に対して、耕作していない農地などを活用して、市民農園の開設を考えてもらうためにHPで働きかけを行った。</li> </ul>					
構成事業	5	市民農園・体験型農園開設支援事業	改善して継続			

**4 施策展開の状況 (Do②)**

改善した取組	・地域情報サイト「しろいまっち」でPRを実施した。
他分野他施策との連携	・秘書課等と連携して、中山競馬場白井特別やNECグリーンロケッツホストタウンデーで、市特産品である梨や自然薯のPR・販売を行った。
市民等との情報共有、参加・協働	

5 施策推進コスト(Do③)						(千円、%)
年度 項目	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	
事業費	8,200	799	3,365	1,567	1,665	
正職員人件費	2,241	2,219	2,312	2,312	2,312	
合計	10,441	3,018	5,677	3,879	3,977	
プロジェクト 内割合	63.3%	33.4%	46.1%	9.5%	7.4%	

6 1次評価 (Check①&Action①) (目標値設定の考え方は白井市第5次総合計画後期基本計画書の82頁を参照ください)

評価項目	指標名	単位	基準値/基準年度		実績値					
					R7 (2025)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
定量的評価	新規就農者数(累計)	人	-	-	20	1	4			
	農業産出額	億円	53.0	H29 (2017)	増加	32.8	39.1			
	梨の農協出荷量	トン	2,623.4	R1 (2019)	3,000	2,302	2,317			
	梨の改植・新植面積(累計)	ha	-	-	6.8	0.97	4.61			
	白井産農産物を積極的に購入する市民の割合	%	20.3	R1 (2019)	増加	10.2	5.8			
指成 標果	耕地面積	ha	1,060	R1 (2019)	1060.0	1,040.0	1,040.0			
定性的評価	<p>・「多様な形態の農業経営と担い手への支援」では、就業支援講座等の参加者が多いが、新規就農者まではなかなか進んでいない。また、農地集積についても、将来設計図となる地域計画の策定が進んでいない。</p> <p>・「農商工や産学官の連携による農産物の高付加価値化やブランド化」では、ブランド化の根幹をなす生産者に、計画で定めた基本方針やブランド展開が浸透していないことから、引き続きブランドイメージや目標の検討・共有を検討していく必要がある。</p> <p>・「農産物の販売の場や販売形態の充実」では、駅前や既存の商業施設など既存の場所で販売の場を拡充することは難しい。</p> <p>・「だれもが農に親しめる環境づくり」では、開設手続きと市のPRチャンネルを使った周知だけの支援では、新たな市民農園を増やしていくのは難しい。</p>									
	内部要因				外部要因					
遅れている取組の原因	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国的に農業従事者の減少や耕作放棄地が増加している中、当市においても各種事業に取り組んでいるが改善までには時間を要する。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>講座等を活用して新規就農者(非農家からの)を増やしていくだけでは、耕作放棄地の増加は止まらない。</li> <li>地域計画の策定は、農地所有者(土地持ち非農家も含めた)の話し合いが進まないため策定できない。</li> <li>ブランド化は生産者が主役になってもらう必要がある。</li> </ul>					
施策を取り巻く環境の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国的な問題になるが、農業従事者の高齢化と後継者不足により従事者が減少しており、減少に伴って耕作放棄地も増えている。</li> <li>農業者が話し合いに基づき、地域農業における中心経営体、地域における農業の将来の在り方などを明確化し、公表する地域計画(人・農地プランの実質化)については、農業経営基盤強化促進法が改正され、農用地がある地区については、令和7年3月31日までの間に策定することとなった。</li> <li>農地法第3条の許可要件である下限要件面積が令和5年4月1日に撤廃された。</li> </ul>									
課題	喫緊の課題				中長期的な課題					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>今までにない多様な形態の農業経営と担い手の検討。</li> <li>生産者を主体としたブランドイメージや目標の検討・共有。</li> <li>地域計画(人・農地プランの実質化)の策定。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>地域計画(人・農地プランの実質化)の策定。</li> <li>新たな販売チャンネルの検討。</li> <li>市民農園等開設の際の新たな支援方法の検討。</li> </ul>					
施策の方向性(改善策)	短期的な方向性				中長期的な方向性					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業系企業やマイクロファーマーなどの多様な形態の農業経営と担い手の検討。</li> <li>ブランド化については梨を進めてきているが、生産者団体が確立されている自然薯等を含めて生産者団体と意見交換を行い、ブランド化に向けて検討する。</li> <li>地域計画を策定する必要がある地域全域にアンケートを実施し、地域農業の将来に意識の高い地区から策定を進める。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>農業系企業やマイクロファーマーなどの多様な形態の農業経営と担い手の検討。企業の需要について、意向や条件等の調査を実施する。</li> <li>ブランド化については梨を進めてきているが、生産者団体が確立されている自然薯等を含めて生産者団体と意見交換を行い、ブランド化に向けて検討する。</li> <li>地域計画を策定する必要がある地域全域にアンケートを実施し、地域農業の将来に意識の高い地区から策定を進める。</li> <li>企業誘致等と連携した販売チャンネルを検討する。</li> <li>市民農園等開設の際の新たな設備投資支援の検討。</li> </ul>					
進め方	<input type="checkbox"/> 行政の役割を拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 現在の行政と市民の役割分担・協働を維持 <input type="checkbox"/> 市民の役割・協働を拡大 <ul style="list-style-type: none"> <li>農業系企業やマイクロファーマーなどの多様な形態の農業経営と担い手の検討。</li> <li>ブランド化については梨を進めてきたが、生産者団体が確立されている自然薯等を含めて生産者団体と意見交換を行い、ブランド化に向けて検討する。</li> <li>地域計画を策定する必要がある地域全域にアンケートを実施し、地域農業の将来に意識の高い地区から策定を進める。</li> <li>企業誘致等と連携した販売チャンネルを検討する。特に施策3-1 都市拠点にぎわうまちづくりにおける「駅周辺地域活性化事業」と連携し、集客力のある駅周辺での販売チャンネルを検討する。</li> <li>市民農園等開設の際の新たな設備投資支援の検討。</li> </ul> <p>以上のような取組を進めることで、市内農業の活性化を図っていく。</p>									

7 2次評価 (Check②&Action②) 白井市行政評価委員会による評価

<ul style="list-style-type: none"> <li>農用地の効率的かつ総合的な利用に関する目標を定める地域計画の策定に当たっては、農業者等の機運を高めていく必要はあるが、併せて策定スケジュールや策定に向けて協議する区域などを設定する必要がある。</li> <li>全国的な課題である農業従事者の高齢化や後継者不足を解消するため、マイクロファーマーなど多様な担い手を検討することは施策の方向性として良いと思われる。</li> <li>農産物のブランド化により市内外の需要を高めて市内農産物の価値を高めることと、所得の向上により新規就農者を増加させ需要に対する供給量を確保することなどにより、農業者の減少や後継者の確保につながる必要がある。</li> </ul>
--

8 3次評価 (Check③&Action③) 総合計画審議会による評価

9 3次評価の改善意見等への対応

1 基本情報

施策名	2 - 2 みどりを育み活かすまちづくり				戦略名	みどり活用プロジェクト		
担当	主担当部	市民環境経済部	主担当課	環境課				
	部長名	岡田 光一	関係課	都市計画課	教育支援課	生涯学習課		

2 取組目標(Plan)

取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>●豊かなみどりがあふれる白井市の良質な環境を、市民とともに守り、育むことで、愛着と誇りを持てるまちづくりを進めます。</li> <li>●市民一人ひとりがみどりの環境の大切さを認識し、豊かなみどりを守り、次世代に残すための取組を展開します。</li> <li>●森や河川、田園など市街地の外側に広がるみどりと市街地内の緑地や樹木などのみどりがチェーンのようにつながり、みどりが持つ暮らしを豊かにする多様な可能性を活かします。</li> </ul>
求める成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民にみどりを自ら守るという意識が醸成される。</li> <li>⇒豊かなみどりの環境を次世代につなげるまちになる。</li> </ul>

3 令和4年(2022年)度取組状況(Do①)

取組1 白井の自然環境の豊かさを知り育むための環境学習の推進

取組方針	・学校や市民団体などと連携し、みどりが形成されてきた歴史やその貴重さなどに関する学習機会を充実します。					
求める取組成果	・環境保全に取り組む市民や市民団体が増え、行政との協働により、みどりの環境が保全される。					
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民団体等との協働による環境フォーラムや環境学習講座等を開催した。</li> <li>・各小中学校の教育計画に基づき、学習や体験等を取り入れた環境授業を実施した。</li> <li>・市民大学校等の講座において、地球温暖化対策（CO<sub>2</sub>削減）や環境保全等に関するカリキュラムを実施した。</li> <li>・市民団体、大学、隣接市との共催で里山学校を実施した。</li> </ul> ※東邦大学と生物多様性に関する協定を締結した。					
構成事業	事業名	評価	事業No	事業名	評価	
	1 環境学習推進事業	現状のまま継続				

取組2 市民によるみどりのネットワークづくりに対する支援

取組方針	・市民団体が自ら、道路沿いなどの身近なみどりを育て、みどりのネットワークをつくる活動を進めます。					
求める取組成果	・環境保全に取り組む市民や市民団体が増え、行政との協働により、みどりの環境が保全される。					
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の沿道に草花を植栽する団体に対し、草花の苗等の購入経費の一部を補助した。(R4(2022)年度実績：48団体)</li> <li>・補助金を交付した団体に、団体名を記載した専用のプレートを配布した。</li> <li>・市HPや広報による事業の周知をした。</li> <li>・環境課窓口や白井環境フォーラムで団体の植えた草花等をパネル展示で紹介し、市民に本事業の取組を周知した。</li> </ul>					
構成事業	事業No	事業名	評価	事業No	事業名	評価
	2	沿道みどりの推進事業	改善して継続			

取組3 地域での環境保全や創出の取組としてのグラウンドワークの推進

取組方針	・みどりの地域資源を守り、育む活動など、地域や市民団体などが連携した取組を進めます。					
求める取組成果	・環境保全に取り組む市民や市民団体が増え、行政との協働により、みどりの環境が保全される。					
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民団体との協働による神々廻弁天池での花壇づくりを継続して行った。</li> <li>・企業の協力でゴルフの使用済みボールを利用し、花壇のなし坊の補修や除草など適切な維持管理を実施した。</li> <li>・千葉大学大学院生（園芸学研究所「環境健康プロジェクト演習」）の演習受講者と共催により、小学生を対象とした森の保全体験型イベントを開催した。</li> </ul>					
構成事業	事業No	事業名	評価	事業No	事業名	評価
	3	森のグラウンドワーク推進事業	改善して継続			

取組4 自然とのふれあいや癒しの場としての里山の保全と活用

取組方針	・市民や市民団体などと協働し、（仮称）谷田・清戸市民の森など、里山を積極的に保全・活用します。					
求める取組成果	・環境保全に取り組む市民や市民団体が増え、行政との協働により、良好なみどりの環境保全が持続できる。					
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市建設部局（都市計画課）と区域の設定や整備にあたっての課題の共有を行った。</li> <li>・気候変動適応や生物多様性の推進に関する検討を行った。</li> <li>・市民団体と連携して、原っぱの草刈りや森の枝等の除伐を行った。</li> </ul> ※東邦大学と生物多様性に関する協定を締結した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・（仮）谷田・清戸市民の森整備事業については、新たな活用の取組は進められたものの、整備に係る方針や区域の確定など隣接地権者との調整や合意形成が課題となっている。</li> </ul>					
構成事業	事業No	事業名	評価	事業No	事業名	評価
	4	（仮称）谷田・清戸市民の森整備事業	改善して継続			

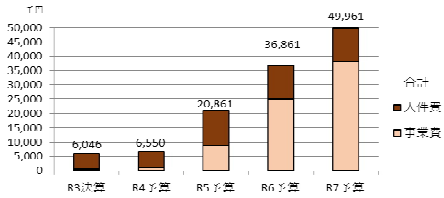
#### 4 施策展開の状況(Do②)

改善した取組	・沿道みどりの推進事業については、複数の団体が協働してできるよう団体間の調整や植栽のアドバイスをを行いみどりのネットワークの形成に努めた。
他分野他施策との連携	・環境学習推進事業は、教育委員会（小中学校）との連携を強め実施した。 ①小学校庁舎見学の際、環境課業務の説明や展示している生物と環境との関係を説明し、環境に対する興味の高揚に努めた。 ②中学生を対象とする脱炭素未来ワークショップの実施について、千葉大学教員等の有識者との調整を連携して行い円滑に授業が実施された。
市民等との情報共有、参加・協働	・市民団体等と協働して環境保全活動の契機となるよう環境フォーラムや環境学習講座を開催して、市民の自然環境に対する興味・関心の向上を図った。 ・東邦大学と生物多様性に関する協定を締結したことにより、環境を保全する市有地（谷田清戸）等の新たな取組の構築の一助とした。

#### 5 施策推進コスト(Do③)

(千円、%)

年度 項目	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
事業費	612	649	1,041	24,969	38,069
正職員人件費	5,434	5,382	5,606	11,911	11,911
合計	6,046	6,031	6,647	36,880	49,980
プロジェクト内割合	36.7%	66.7%	53.9%	90.5%	92.6%



#### 6 1次評価(Check①&Action①)

(目標値設定の考え方は白井市第5次総合計画後期基本計画書の82頁を参照ください)

定量的評価	指標名	単位	基準値/基準年度	目標値		実績値					
				R7 (2025)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)		
取組指標	市民団体との協働による環境保全活動数(累計)	回	-	-	30	24	26				
	環境活動を行う団体数	団体	56	R1 (2019)	62	66	63				
成果指標	自然保護活動に取り組む市民の割合	%	1.8	R1 (2019)	2.3	8.9	16.3				
	環境美化活動に取り組む市民の割合	%	7.0	R1 (2019)	8.0	18.5	23.3				
定性的評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境学習事業や森のグラウンドワーク推進事業では、自然に触れ合う機会が少ない小中学生のCO<sub>2</sub>削減の重要性やSDGsの取組に対する理解の促進等環境意識の醸成に寄与することができた。</li> <li>沿道みどりの推進事業では、市民団体が自ら緑化活動を行ったが、今後は、複数団体の協働によるみどりのネットワークづくりの拡充が必要となる。</li> <li>(仮)谷田・清戸市民の森整備事業に係わり、新たな活用の取組については進められたものの、整備に係る方針や区域の確定など隣接地権者との調整や合意形成が課題となっている。</li> <li>貴重な自然環境を損なわないよう市民団体との協働により適切な保全管理作業を行っている。</li> </ul>						<b>進捗状況</b> <input type="checkbox"/> 順調 <input type="checkbox"/> おおむね順調 <input checked="" type="checkbox"/> やや遅れている <input type="checkbox"/> 遅れている				
遅れている取組の原因	内部要因			外部要因							
施策を取り巻く環境の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>市は、「白井市第3次環境基本計画や地球温暖化対策実行計画」を策定し、令和4年(2022年)2月にゼロカーボンシティの実現に向けてチャレンジすることを表明した。</li> <li>国や県の環境政策に係る動向を踏まえ、「気候変動適応や生物多様性」などの新たな施策に取り組む必要がある。</li> </ul>										
課題	喫緊の課題					中長期的な課題					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民や事業者が自然環境の大切さを理解し、興味・関心を持ちCO<sub>2</sub>排出量の削減・環境保全活動に参画してもらえるようPR方法やイベント内容を工夫する必要がある。</li> <li>隣接地権者との合意形成が必要となる。</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>環境保全の取組に対する効果の発現には長い期間が必要となる。</li> <li>所定の保全する区域等の自然環境を守り続ける必要がある。</li> </ul>					
施策の方向性(改善策)	短期的な方向性					中長期的な方向性					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民団体、大学、環境研究機関との連携による環境学習や環境保全活動を充実させる。</li> <li>隣接地権者との情報共有、意見交換会を実施する。</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>環境学習や環境保全活動などの体験を通じ、幅広い世代が環境の豊かさを享受し守る意識が醸成され、未来の環境保全活動を担う人材の育成につながり、豊かなみどりの環境を次世代につなげるまちを形成する。</li> </ul>					
進め方	<input type="checkbox"/> 行政の役割を拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 現在の行政と市民の役割分担・協働を維持 <input type="checkbox"/> 市民の役割・協働を拡大										
	<ul style="list-style-type: none"> <li>継続して小中学校、市民団体、大学、研究機関等と連携・協働して環境学習や環境保全活動を行う。</li> <li>環境保全活動を行っている団体の育成・継続のための支援、地元(隣接地権者等)の理解・参画が得られるような施策(仕組み)づくりを検討する。</li> </ul>										

#### 7 2次評価(Check②&Action②)

白井市行政評価委員会による評価

<ul style="list-style-type: none"> <li>成果指標では、自然保護活動や環境美化活動に取り組む市民の割合が基準値を大きく上回っているが、引き続き各事業に積極的に取り組む必要がある。</li> <li>(仮)谷田・清戸市民の森整備事業の整備に係る方針や区域などについては、隣接地権者や環境団体等と十分に調整をして合意形成を図る必要がある。</li> </ul>
--

#### 8 3次評価(Check③&Action③)

総合計画審議会による評価

#### 9 3次評価の改善意見等への対応



1 基本情報

施策名	3 - 3 拠点を結ぶまちづくり				戦略名	拠点創造プロジェクト	
担当	主担当部	都市建設部	主担当課	都市計画課			
	部長名	伊藤 正道	関係課	産業振興課	道路課		

2 取組目標(Plan)

取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>●道路ネットワークを活かして、沿道への企業進出を誘導します。</li> <li>●北千葉道路の整備の進捗状況を踏まえて、インターチェンジ周辺への産業機能の創出を進めます。</li> <li>●都市拠点と各地域の拠点をネットワーク化し、まち全体の拠点間を移動しやすいまちづくりを進めます。</li> </ul>
求める成果	移動しやすい環境が整い、市民の利便性が向上するとともに、昼間人口が増加する。 ⇒ヒト・モノなど様々な交流が活発なまちになる。

3 令和4年(2022年)度取組状況(Do①)

取組1 幹線道路沿道などにおける開発誘導						
取組方針	羽田空港と成田空港の中間地点にあり、国道16号が通過しているという白井市の立地特性を活かし、企業などの進出を誘導します。また、構想道路の計画化を進めるとともに、北千葉道路のインターチェンジ周辺の活用方を検討します。					
求める取組成果	産業を支える道路ネットワークが構築され、さらに企業の進出が進む。					
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・構想道路の計画化に向けた検討の基礎資料である「白井市構想道路基礎検討書（R3年度策定）」を踏まえ、庁内各課が保有する資料等を基に地形や地質的条件、用地取得上のリスクなどを可能な限り調査した。</li> <li>・幹線道路沿道の活性化、地域振興をもたらす企業等の誘導に向けて、幹線道路沿道での都市計画施策について千葉県都市計画課、企業立地課、農地農村振興課等と協議を行った。</li> <li>・「白井市企業誘致基本方針」を策定し、戦略的な企業誘致を実施するための基本的な方向性、誘致すべき産業とその候補地、及び誘致の進め方を示した。</li> <li>・新規企業の立地及び既存企業の事業拡張などを誘導するため、企業立地奨励金制度のPR・運用のほか、令和3年度に実施した産業用地確保検討調査をもとに地権者等と意見交換会などを行い、3つの地区まちづくり協議会の設立につなげた。</li> </ul>					
構成事業		事業名	評価	事業No	事業名	評価
	1	道路ネットワークづくり事業	現状のまま継続	2	幹線道路沿道活性化事業	現状のまま継続
	3	企業誘致推進事業【再掲】	改善して継続			

取組2 都市拠点と各地域を結ぶ道路ネットワークの構築						
取組方針	市内を便利に移動できるよう道路のネットワーク化を進めるとともに、安全に移動できるよう幹線道路などの維持修繕を進めます。					
求める取組成果	安全に便利に移動できる道路ネットワークが整う。					
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・舗装修繕計画に基づき、必要箇所を精査して幹線市道などの効率的・効果的な修繕工事を行った。（7路線 延長1.9km）</li> <li>・構想道路の計画化に向けた検討の基礎資料である「白井市構想道路基礎検討書（R3年度策定）」を踏まえ、庁内各課が保有する資料等を基に地形や地質的条件、用地取得上のリスクなどを可能な限り調査した。【再掲】</li> </ul>					
構成事業	事業No	事業名	評価	事業No	事業名	評価
	4	市道維持修繕事業	現状のまま継続	5	道路ネットワークづくり事業【再掲】	現状のまま継続

取組3 利便性の良い公共交通ネットワークの確保						
取組方針	拠点間を移動しやすいよう、北総線運賃対策をはじめ、バス・鉄道・タクシーなど公共交通ネットワークの利便性の向上を進めます。					
求める取組成果	交通不便により生活に困難を抱える人が減る。					
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年10月に北総鉄道の運賃が大幅に値下げされ、市においても市内外に周知を図るとともに、沿線活性化に向けて取組を引き続き進めることを表明した。</li> <li>・鉄道事業者と沿線地域が一体となってまちづくりや地域の賑わいの創出などを図り、利用者の増加につなげるため、北総線沿線地域活性化協議会において沿線市事業の後援活動及び周知を行ったほか、協議会事業として沿線地域の魅力を発信する「北総線沿線活性化トレイン」を令和4年8月末から令和5年2月末までの約半年間運行した。</li> <li>・コミュニティバスの役割の範囲内における利便性向上、ルートの効率化による便数増や速達性に配慮して令和3年度に見直したルート・ダイヤにより運行するとともに、利用者の更なる満足度や利便性の向上のための取組を検討し、利用者がバスの走行位置をリアルタイムにウェブサイトを確認できるバスロケーションシステムの導入を決定した。</li> </ul>					
構成事業	事業No	事業名	評価	事業No	事業名	評価
	6	鉄道交通推進事業	現状のまま継続	7	バス交通推進事業	改善して継続

4 施策展開の状況(Do②)

改善した取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティバス利用者の更なる満足度や利便性の向上のための取組を検討し、バスロケーションシステムの導入を決定した。</li> <li>・企業誘致に関しては、「白井市企業誘致基本方針」を策定し、戦略的で透明性のある市の企業誘致の進め方（取組方針）を明確化した。</li> </ul>
他分野他施策との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北総線沿線活性化トレインでは、戦略1-1の取組の1つである「地域資源を活用した魅力ある暮らしの促進」と連携し、子育て環境や自然、文化施設など様々な市の魅力をPRした。</li> <li>・企業誘致推進事業は、戦略1-2の取組目標の1つである若い世代の就業機会の拡大にもつながっているものとして取り組んでいる。</li> </ul>
市民等との情報共有、参加・協働	<ul style="list-style-type: none"> <li>・七次・白井木戸地区（LM地区）まちづくり協議会の認定、活動支援など、市民と情報共有を図りながら、市民の主体的なまちづくり活動への必要な支援を行っている。</li> </ul>

5 施策推進コスト(Do③)						(千円、%)
年度 項目	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	
事業費	517,144	516,130	470,804	473,538	448,674	
人件費	57,053	72,296	71,812	71,812	71,812	
合計	574,197	588,426	542,616	545,350	520,486	
プロジェクト 内割合	78.6%	67.0%	61.7%	85.1%	83.7%	

6 1次評価 (Check① & Action①) (目標値設定の考え方は白井市第5次総合計画後期基本計画書の84頁を参照ください)

定量的 評価	指標名	単位	基準値/基準年度		目標値	実績値					
					R7 (2025)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	
成果 指標	進出(増設)企業数(累計)	社	-	-	10	2	2				
	公共交通による人口カバー率	%	89.0	H29 (2017)	95.0	95.5	95.5				
	滞在人口率(平日・日中)	倍	0.86	R1 (2019)	0.88	0.9	0.88				
定性的 評価	<p>求める成果である「移動しやすい環境」を整えるためには、拠点を結ぶ道路ネットワークの形成と、移動を支える公共交通の充実の両面が必要である。</p> <p>道路ネットワークの形成は、構想道路の計画化の検討や市道修繕など、安全で利便性の高い道路ネットワークの向上に向けた長期的な取組が求められるが、現在、状況に応じて必要な取組を進めている。公共交通の充実については、北総線の沿線活性化に向けた取組の実施や、コミュニティバスの利便性の向上のための取組の決定など、改善を図りながら施策の実現に向けて着実に進んでいる。</p>										
遅れている取組の原因	内部要因					外部要因					
施策を取り巻く環境の変化	人口減少の局面を迎える中、高齢化の進展などに伴う交通弱者の増加も見込まれる。また、人口減少により地域の都市機能やコミュニティ機能の低下が危惧される。										
課題	喫緊の課題					中長期的な課題					
施策の方向性(改善策)	短期的な方向性					中長期的な方向性					
進め方	<input type="checkbox"/> 行政の役割を拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 現在の行政と市民の役割分担・協働を維持 <input type="checkbox"/> 市民の役割・協働を拡大 ・道路の整備は行政が役割の中心となるが、公共交通については、路線バス・鉄道・タクシーなど民間事業者が自ら取り組む部分も大きく、多様な公共交通機関の役割分担と連携による公共交通網を形成していく。										

7 2次評価 (Check② & Action②)	白井市行政評価委員会による評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>バス交通推進事業については、利用者の満足度や利便性の向上のための取組みとしてバスロケーションシステムの導入を決定したが、長期的な観点から人口減少・高齢化が進む中で各地域をどのようにサポートしていくのかの検討が必要である。</li> <li>鉄道については、令和4年10月に運賃値下げが実施されているが、沿線の活性化を進めながら、さらなる運賃の値下げに向けて取り組んでいく必要がある。</li> </ul>	

8 3次評価 (Check③ & Action③)	総合計画審議会による評価

9 3次評価の改善意見等への対応